

動物管理学科
ドッグトレーニングコース

授業科目	犬学・犬種標準学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1年次通年	必須	講義	4
担当教員	下仲 佑依				
実務経験歴	ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬と関わる職業に就くために、犬種とスタンダードを理解することが重要である。その為、参考書を用いて、犬種とスタンダードを確認しつつ、知識を身に付けていく。				
達成目標	犬種とスタンダードを理解し、個々の犬種の特徴を説明できるようになる。				
授業時間外に必要な学修	さまざまな犬種とスタンダードが集まる「ドッグショー」の視察				
テキスト	最新犬種図鑑（写真で見る犬種とスタンダード）/インターズー				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	ケネルクラブとスタンダード	16回	第6グループ①		
2回	犬種の用途やルーツによる分け	17回	第6グループ②		
3回	第1グループ①	18回	第7グループ①		
4回	第1グループ②	19回	第7グループ②		
5回	第1グループ③	20回	第8グループ①		
6回	第2グループ①	21回	第8グループ②		
7回	第2グループ②	22回	第8グループ③		
8回	第2グループ③	23回	第9グループ①		
9回	第3グループ①	24回	第9グループ②		
10回	第3グループ②	25回	第9グループ③		
11回	第3グループ③	26回	第10グループ①		
12回	第4グループ、第5グループ①	27回	第10グループ②		
13回	第5グループ②	28回	第10グループ③		
14回	第5グループ③	29回	ドッグショーについて		
15回	前期定期試験・総評・まとめ	30回	後期定期試験・総評・まとめ		
備考					

授業科目	犬学・犬種標準学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2年次通年	必須	講義	2
担当教員	畠山 博文・下仲 佑依				
実務経験歴	<p>【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティー教室を開催経験があり、現ドッグトレーニングコースのコース長を務める</p> <p>【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。</p>				
授業目的	犬の体に関する基礎知識を身に付ける。また、犬の基本行動・心理を理解する。子犬の生態管理やパピーケアスタッフとして活躍できるように知識を身に付ける。				
達成目標	犬の体について理解をする。犬の基本行動・心理・子犬の生態管理を理解し説明ができる。				
授業時間外に必要な学修	日常の飼育管理の中で身体的特徴を理解し、行動・心理などを見て観察する。				
テキスト	最新犬種図鑑（写真で見る犬種とスタンダード）/インターズー				
参考書	パピーケアスタッフBOOK/インターズー				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の体に関する基礎知識①	16回	子犬の問題行動①		
2回	犬の体に関する基礎知識②	17回	子犬の問題行動②		
3回	犬の体に関する基礎知識③	18回	子犬の問題行動③		
4回	犬の体に関する基礎知識④	19回	子犬の問題行動④		
5回	犬の行動と心理①	20回	子犬の問題行動⑤		
6回	犬の行動と心理②	21回	子犬のアドバイス①		
7回	犬の行動と心理③	22回	子犬のアドバイス②		
8回	犬の行動と心理④	23回	子犬のアドバイス③		
9回	犬の行動と心理⑤	24回	パピークラスの目的		
10回	子犬のしつけ編①	25回	パピークラスの概要		
11回	子犬のしつけ編②	26回	しつけ教室の実演①		
12回	子犬のしつけ編③	27回	しつけ教室の実演②		
13回	子犬のしつけ編④	28回	しつけ教室の実演③		
14回	子犬のしつけ編⑤	29回	まとめ		
15回	前期定期試験・総評・まとめ	30回	後期定期試験・総評		
備考					

授業科目	獣医衛生・繁殖学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1年次（通年）	必修	講義	4単位
担当教員	外山 朋子				
実務経歴	認定動物看護師資格習得し、動物病院にて5年間勤務				
授業目的	動物の病気に関する知識を付け、お預かりの体調チェック、お預かり後の体調チェックに役だてる。				
達成目標	動物の病気に関して知識を付けると共に、お預かりする際に自身で判断できる能力を身につける。				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	めざせ早期発見！わかる犬の病気/著書:小沼守/インターズー				
参考書	ビジュアルで学ぶ動物看護学				
成績評価(割合)					
授業内容とスケジュール					
1回	全身チェック		16回	鼻と口のつくり	
2回	体調チェック		17回	鼻と口の病気	
3回	人獣共通感染症		18回	鼻と口の病気2	
4回	病気の予防(ワクチンについて)		19回	泌尿器、生殖器のつくり	
5回	皮膚の作り		20回	お尻、お腹まわりの病気1	
6回	皮膚の病気		21回	お尻、お腹まわりの病気2	
7回	皮膚の病気2		22回	足先、膝、腰まわりのつくり	
8回	耳の作り		23回	足先、膝、腰まわりの病気	
9回	耳の病気		24回	足先、膝、腰まわりの病気2	
10回	耳の病気2		25回	犬種によってかかりやすい病気1	
11回	目の作り		26回	犬種によってかかりやすい病気2	
12回	目の病気		27回	子犬、子猫の体調管理	
13回	目の病気2		28回	子犬、子猫がかかりやすい病気	
14回	期末試験対策		29回	期末試験対策	
15回	期末試験・総評・まとめ		30回	期末試験・総評・まとめ	
備考					

授業科目	獣医衛生・繁殖学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	竹口 真理				
実務経験歴	動物病院に勤め医療に従事				
授業目的	動物の病気に関する知識を付け、お預かりの体調チェック、お預かり後の体調チェックに役だてる。				
達成目標	動物の病気に関して知識を付けると共に、お預かりする際に自身で判断できる能力を身につける。				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	めざせ早期発見！わかる犬の病気/著書:小沼守/インターズー				
参考書	ビジュアルで学ぶ動物看護学				
成績評価(割合)					
授業内容とスケジュール					
1回	全身・体調チェック 復習				
2回	人獣共通感染症 復習				
3回	病気の予防(ワクチンについて) 復習				
4回	皮膚の病気の実際				
5回	耳・鼻の病気の実際				
6回	目の病気				
7回	犬種別のかかりやすい疾患とその治療法				
8回	犬種別のかかりやすい疾患とその治療法				
9回	犬種別のかかりやすい疾患とその治療法				
10回	泌尿器、生殖器について				
11回	繁殖とは				
12回	繁殖の実際				
13回	繁殖の実際				
14回	子犬・子猫の病気				
15回	期末試験・総評・まとめ				
備考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1年次（前期）	必須	実技/講義	12
担当教員	島山 博文・下仲 佑依				
実務経験歴	<p>【島山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティー教室を開催経験があり、現ドッグトレーニングコースのコース長を務める</p> <p>【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。</p>				
授業目的	犬のしつけトレーニングの必要性をと重要性を知り、犬とのコミュニケーションやコントロール性能を高める為の技術を身に付ける。				
達成目標	動物の行動理論と学習理論を基本に科学的なドッグトレーニングを行うことができる人材を育成する。				
授業時間外に必要な学修	普段の飼育管理の中で犬の行動について考える。また、正しい行動を犬が行った際の報酬の配分のついて考える。				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/インターズー				
参考書	ドッグトレーニングブック/インターズー				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1～13	「訓練士」「トレーナー」としての目的・概要・仕事・役割				
14～27	しつけ、トレーニングの必要性・重要性				
28～41	訓練道具・用具の説明				
41～54	基本トレーニング①〈犬とのコミュニケーション〉				
55～68	犬との暮らし方学について				
69～82	犬のトレーニング学について				
83～96	実技における必要なコマンド①				
97～109	実技における必要なコマンド②				
110～123	トレーニングの2つの手法				
124～137	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉①				
138～151	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉②				
152～164	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉③				
165～176	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉④				
177～179	前期まとめ実習				
180	前期定期試験・総評・まとめ				
備考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1年次（後期）	必須	実技/講義	12
担当教員	島山 博文・下仲 佑依				
実務経験歴	<p>【島山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティー教室を開催経験があり、現ドッグトレーニングコースのコース長を務める</p> <p>【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。</p>				
授業目的	行動の形成のプランを立て、服従訓練科目について学び技術を身に付ける				
達成目標	動物の行動理論と学習理論を基本に科学的なドッグトレーニングを行うことができる人材を育成する。				
授業時間外に必要な学修	普段の飼育管理の中で犬の行動を考え、成功を重ねるトレーニング方法を確立する。				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/インターズー				
参考書	ドッグトレーニングブック/インターズー				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1～13	基本トレーニング②〈トレーニングの手法を使って行動の強化と安定〉				
14～27	行動の形成①（プランを立てる）				
28～41	行動の形成②（プランを実施）				
41～54	服従訓練科目の定義、実習①				
55～68	服従訓練科目の定義、実習②				
69～82	服従訓練科目の定義、実習③				
83～96	服従訓練科目の定義、実習④				
97～109	服従訓練科目の定義、実習⑤				
110～123	服従訓練科目の定義、実習⑥				
124～137	服従訓練科目の定義、実習⑦				
138～151	服従訓練科目の定義を組み合わせ実践①				
152～164	服従訓練科目の定義を組み合わせ実践②				
165～176	服従訓練科目の定義を組み合わせ実践③				
177～179	後期まとめ実習				
180	後期定期試験・総評・まとめ				
備考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2年次（前期）	必須	実技/講義	10
担当教員	畠山 博文 、 下仲 佑依 、 平本 理恵				
実務経験歴	<p>【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティー教室を開催経験があり、現ドッグトレーニングコースのコース長を務める。</p> <p>【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。</p> <p>【平本】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士、日本警察犬公認訓練士。訓練所を運営し、現役の訓練士が授業講師として指導を行う。</p>				
授業目的	犬が人間社会で暮らしていく為に必要な訓練技術の習得				
達成目標	犬のコントロールが出来る様になる事				
授業時間外に必要な学修	信頼される為の人間性及びコミュニケーション能力				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/インターズー				
参考書	JKC訓練教本				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1～11	日本警察犬訓練士補の概論				
12～23	日本警察犬競技会の概論				
24～36	日本警察犬服従第1科目実習（G1）〈基本訓練～停座～停座からの待て〉				
37～50	日本警察犬服従第1科目実習（G1）〈同上～脚側停座～停座及び招呼〉				
51～60	日本警察犬服従第1科目実習（G1）〈同上～対面停座～立止～立止からの待てと旋回〉				
61～70	日本警察犬服従第1科目実習（G1）〈同上～紐付脚側行進～紐無脚側行進～休止〉				
71～82	日本警察犬服従第1科目実習（G1）①〈通し訓練〉				
83～93	ドッグスポーツアジリティーの基礎知識①				
94～104	アジリティー障害への意識付け①				
105～115	アジリティー障害への意識付け②				
116～126	アジリティー障害への意識付け③				
127～137	アジリティー障害への意識付け④				
138～146	アジリティー基本のシーケンスの実習①				
147～149	アジリティー基本のシーケンスの実習②				
150	前期定期試験・総評・まとめ				
備考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅳ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2年次（後期）	必須	実技/講義	11
担当教員	島山 博文 、 下仲 佑依 、 平本 理恵				
実務経験歴	<p>【島山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティー教室を開催経験があり、現ドッグトレーニングコースのコース長を務める。</p> <p>【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。</p> <p>【平本】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士、日本警察犬公認訓練士。訓練所を運営し、現役の訓練士が授業講師として指導を行う。</p>				
授業目的	ドッグトレーナーのプロとしての経験				
達成目標	警察犬訓練競技会及びJKC家庭犬訓練競技会等への出場				
授業時間外に必要な学修	信頼される為の人間性及びコミュニケーション能力				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/インターズー				
参考書	JKC訓練教本				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1～11	日本警察犬服従第2科目（G2）〈基本訓練～脚側行進中停座～停座からの待て、招呼〉				
12～23	日本警察犬服従第2科目（G2）〈基本訓練～脚側行進中伏臥～伏臥からの待て、招呼〉				
24～36	日本警察犬服従第2科目（G2）〈基本訓練～脚側行進中立止～立止からの待て〉				
37～50	日本警察犬服従第2科目（G2）〈ダンベル保持・提出～物品持来、障害飛越〉				
51～60	日本警察犬服従第1科目（G1）②、日本警察犬服従第2科目（G2）〈通し訓練〉				
61～70	アジリティーの基本知識②				
71～82	アジリティー基本のシーケンスの実習③				
83～95	アジリティー基本のシーケンスの実習④				
96～108	アジリティーコースの実習①				
109～121	アジリティーコースの実習②				
122～134	アジリティーコースの実習③				
135～147	日本警察犬訓練士補の資格試験に向けて通し稽古、アジリティー競技会に向けて通し練習①				
148～159	日本警察犬訓練士補の資格試験に向けて通し稽古、アジリティー競技会に向けて通し練習②				
160～164	日本警察犬訓練士補の資格試験に向けて通し稽古、アジリティー競技会に向けて通し練習②				
165	後期定期試験・総評・まとめ				
備考					

授業科目	ドッグトレーニング理論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1年次通年	必須	講義	4
担当教員	下仲 佑依				
実務経験歴	ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬のしつけの重要性と必要性を理解し、学習理論を用いて飼い主に対し、しつけの説明ができるトレーナーを目指す。				
達成目標	学習理論を理解し、実技学の実習の中で実際にしつけを用いて犬の行動を増減させる。用いているしつけの内容説明ができるようになる。				
授業時間外に必要な学修	人とのコミュニケーションをとる				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/インターズー				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	しつけ学という学問	16回	犬の学習と効果		
2回	犬のしつけとトレーニングの必要性重要性	17回	正の強化と効果		
3回	トレーニングについて	18回	一次性強化子・二次性強化子		
4回	犬の起源と変化	19回	嫌悪刺激について		
5回	犬の役割について	20回	基本的な指針		
6回	犬のコミュニケーションと学習	21回	犬の行動を引き出す		
7回	成長過程での学習の大切さ①	22回	犬という動物を見直す		
8回	成長過程での学習の大切さ②	23回	咬みつく犬		
9回	しつけに必要な理論	24回	犬との暮らし		
10回	犬の言葉（ボディランゲージ）	25回	犬の問題行動対処法		
11回	カーミング・シグナル	26回	人とのコミュニケーションスキル		
12回	犬のコミュニケーションと学習	27回	犬のしつけトレーニングの基礎		
13回	ゲージに入って休むことの大切さ	28回	子犬のしつけ方教室を開きましょう		
14回	いかにして犬のリーダーになるか	29回	ケアと管理		
15回	前期定期試験・総評・まとめ	30回	後期定期試験・総評・まとめ		
備考					

授業科目	総合研究				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2年次（後期）	必修	講義	1単位
担当教員	島山 博文・下仲 佑依				
実務経験歴	【島山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験があり、現ドッグトレーニングコースのコース長を務める 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	ドッグトレーニングコースの授業で学んだセラピーの理念に基づき、更なる研究テーマに沿って論文などを作成する。				
達成目標	各自、研究テーマを決定し、調査や実践な研究を行いセラピストとしての判断力や実践能力を身につける。				
授業時間外に必要な学修	心身共に健康であり、また、常に向上心を持ち続けることができるよう意識を高めることが必要。				
テキスト	各教科で使用したテキスト				
参考書					
成績評価(割合)	制作した論文など（100%）にて優・良・可・不可にて評価				
授業内容とスケジュール					
1回	研究とは				
2回	テーマの決定				
3回	テーマに沿って研究				
4回	テーマに沿って研究				
5回	テーマに沿って研究				
6回	テーマに沿って研究				
7回	テーマに沿って研究				
8回	テーマに沿って研究				
9回	テーマに沿って研究				
10回	テーマに沿って研究				
11回	テーマに沿って研究				
12回	テーマに沿って研究				
13回	テーマに沿って研究				
14回	テーマに沿って研究				
15回	作成した論文や発表などにて評価				
備考					